

adpack® アドコート株式会社

整理番号：AC-J-2134

作成日：2011年07月26日

改訂日：2012年10月03日

安全データシート (SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

1.1. 化学物質等の名称

製品名： アドパック 防錆紙（鉄・鉄鋼用） GK-7M
品番： AWGK7M09030 AAAGK7M1000100 AWGK7M609010
エコシリーズ（アドシート）
H1-A5 H1-A4 H1-A3 H1-B5 H1-B4 HS1-250
HS1-300 HS1-500 HS1-1000
エコシリーズ（アドフィルム）
Y1-S Y1-M Y1-L
一般名： 防錆紙

1.2. 会社情報

会社名： アドコート株式会社
住所： 〒578-0984 大阪府東大阪市菱江1丁目25番14号
電話番号： 072-963-3848
Fax 番号： 072-964-0794
緊急時の連絡先： 072-963-3848

1.3. 推奨用途

鉄系金属の防錆包装
JIS Z 0303 の RP1-K1、RP2-K、RP3-K に用いる

2. 危険有害性の要約

2.1. GHS 分類結果**物理化学的危険性**

分類されない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）： 区分外

環境に対する有害性

分類されない

2.2. GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル： なし
注意喚起語： なし
危険有害性情報： なし
注意書き： なし

2.3. 重要危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

3.1. 単一物質・混合物の区別

混合物

3.2. 一般名または化学名

防錆紙

3.3. 成分情報

化学名または一般名	CAS 番号	官報公示整理番号	濃度または濃度範囲 (%)
セルロース	9004-34-6	—	81 ~ 87
水	7732-18-5	—	3 ~ 6
気化性防錆剤	—	—	9 ~ 14
印刷インク	—	—	< 0.1

注) アドフィルム (Y1-S、Y1-M、Y1-L) のポリ袋は成分情報に含まれていない。

3.4. GHS 分類に寄与する危険有害成分

セルロース、気化性防錆剤

3.5. 製品の危険有害性に寄与しない成分

水、印刷インク

4. 応急措置

4.1. 暴露経路による応急措置

吸入した場合： うがいをする。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。皮膚に付着した場合： 水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合： 水で 15-20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合： 口を水ですすぐこと。飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

4.2. 予想される急性症状及び遅発性症状

情報なし

4.3. 応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

5.1. 消火剤

水、粉末消火剤、泡消火剤、乾燥砂を使用する。

5.2. 使ってはならない消火剤

紙状の物質には二酸化炭素消火剤は適さない。

5.3. 特有の危険有害性

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

5.4. 特有の消火方法

消火活動は風上から行う。

火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

5.5. 消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

6.1. 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

6.2. 環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

6.3. 回収、中和、封じ込め、および浄化の方法

掃除用具等で掃き集め、ポリ袋等に回収する。

6.4. 二次災害の防止策

紙片を踏むとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

取扱いや保管場所の近傍での飲食、喫煙の禁止。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1. 取扱い

技術的対策： 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱い注意事項： 気化性防錆剤の気化が促進されるので、高温の環境を避ける。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

7.2. 保管

技術的対策： 保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。
雨、水濡れの恐れのない場所に保管し、重量によっては転倒、落下を防止する。

混触禁止物質： 酸化剤

保管条件： 火気、酸化剤から離して保管する。

高温、直射日光を避けて保管する。

容器包装材料： 雨、水濡れを防止できる材料で包装する。

8. 暴露防止及び保護措置

8.1. 管理濃度・作業環境評価基準

設定されていない

8.2. 許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

ACGIH TLV-TWA（2009）	10 mg/m ³ （セルロース）
日本産業衛生学会（2009）	2 mg/m ³ （第3種粉塵；吸入性粉塵）
	8 mg/m ³ （第3種粉塵；総粉塵）

8.3. 保護具

呼吸器の保護具：	粉塵が発生する場合、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具：	手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する。
眼の保護具：	眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具：	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

8.4. 設備対策

粉塵が発生する場合は、換気装置を使用する。また、静電気放電に対する予防措置を講ずること。

8.5. 衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。

9. 物理的及び化学的性質

9.1. 物理的及び化学的性質の基本情報

概観：	茶色味のある円柱状紙ロール又は平判
臭い：	わずかなアミン臭（気化性防錆剤及びクラフト紙による）
溶解性：	水に対して不溶
その他：	情報なし

10. 安定性及び反応性

10.1. 安定性

通常の実験条件下では安定である。

10.2. 危険有害反応可能性

通常の実験条件下では危険有害反応を起こさない。

10.3. 避けるべき条件

粉塵が発生する切削作業等を行う場合、換気装置を使用する。
直射日光を避け、冷暗所に保管する。

10.4. 混触危険物質

酸化剤との接触を避けること。

10.5. 危険有害な分解生成物

燃焼した時、有害ガス（一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物）を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性： ラット経口投与 LD50 = 4300 mg/kg (成分組成から算出)

12. 環境影響情報

情報なし

13. 廃棄上の注意

13.1. 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

13.2. 汚染容器および包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

14.1. 国際規制

国連番号： 該当しない

海洋汚染物質： 該当しない

14.2. 国内規制

該当しない

14.3. 緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

該当しない

14.4. 特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

消防法： 指定可燃物「品名：ぼろ及び紙くず」に該当

16. その他の情報

参考文献： 日本産業衛生学会 (2009) 許容濃度等の勧告
ACGIH (2009) TLVs and BEIs
原料メーカーの SDS

【注意】本 SDS は、JIS Z 7252:2009、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。